

住民から生まれて40年 酒匂川・鮎沢川水系流域保全活動 - 酒匂川の自然 21世紀へ -

酒匂川水系保全協議会 会長 小澤 良明

酒匂川の紹介

酒匂川は神奈川県西部の代表的な河川です。酒匂川は、静岡県では鮎沢川と呼ばれ、富士山麓に源を発しています。酒匂川は流域住民のみならず神奈川県内の上水道の水源として利用されるほか、農業用水、工業用水等に利用されています。

また、酒匂川は古くから暴れ川として知られ、治水に関する逸話の中には二宮尊徳翁の生家も近くにあり、尊徳が治水のために植えた松並木などが数多く存在しています。

酒匂川に沿って連続する松並木や、富士山をはじめとする背景の山並みが酒匂川の広大な河川敷と水面からなる自然がのどかな景観をかもし、人々に憩いとやすらぎを与える都市空間になっています。

酒匂川は鮎釣りの川として、絶滅危惧種 種のコアジサシの営巣地としても有名です。

また、酒匂川水系独自の固有種である「小田原メダカ」の自生地は県下で唯一、小田原市にあります。小田原市ではメダカを「市の魚」に指定しています。

酒匂川水系保全協議会の設立経緯

酒匂川は遠い昔から豊富な水量・良好な水質により、農業、漁業を盛んにし、流域住民の生活を支え、心のよりどころとなる母なる川です。

しかし、昭和30年代に入ると産業の発展と人口の増加の中で、全国の河川と同様に水質汚濁の問題が発生するようになりました。

このような状況の中で、農業・漁業関係者を中心に酒匂川水系の水質汚濁の問題に危機感を募らせる声があがり、酒匂川の水質保全に地域の組織的な取り組みを行うため、昭和37年7月に第1回目の「酒匂川水系の保全に対する協議会設立準備会」が開催されました。



写真1 酒匂川と松並木



写真2 酒匂川の鮎釣り



写真3 小田原メダカ

そして、昭和35年12月、関係団体、工場・事業場及び流域自治体の39会員により「酒匂川水系保全対策協議会」が設立され、酒匂川の環境保全へ第一歩を踏み出しました。

その後、会員各位のご尽力のもと、この活動が40年に渡り続けられ、今日に至っております。(現在の会員数 99団体)

住民から生まれて40年 酒匂川・鮎沢川水系流域保全活動 - 酒匂川の自然 21世紀へ -
酒匂川水系保全協議会 会長 小澤 良明

酒匂川水系保全協議会の活動

酒匂川水系の水質調査
環境保全に関する研究会及び講演会の開催
河川美化活動及び河川清掃活動
河川美化啓発用看板の設置
生物相調査の実施(魚類・水生昆虫・藻類)
水環境保全のための普及啓発活動及び野鳥教室の開催

平成12年度の主な活動

小学生による水質調査の実施
簡易水質調査キットを用いて教諭の指導により、小田原市内の小・中学校で水質調査学習を実施しました。

環境保全講演会の開催(出席者140人)
講師 埼玉大学工学部 佐々木寧教授
演題 環境先進国ドイツにみる治水と景観保全

酒匂川をテーマにした写真展の開催

神奈川県内水質保全団体研修会への参加

水質保全施策研究会の開催

酒匂川水系の上流域から河口まで一貫した水質保全を行うために12の自治体会員による水質保全施策研究会を開催しました。

家族で楽しむ写真教室の開催(出席者37人)

写真という身近な題材を通じて川や自然にもっと親しんでもらうために、会員の協賛で実施しました。
酒匂川の上流部の河内川の澄んだきれいな川の水、周辺の豊かな自然をファインダー越しに観察することで、参加した子どもたちに川の水をきれいに保つことの大切さ、自然を守ることの大切さを教えるよい機会になりました。

教育研修視察(出席者29人)

建設省荒川下流工事事務所の事業について巡視船「あらかわ」に乗船させていただき荒川の現況見学をしました。

コアジサシのデコイ製作教室及びコアジサシの郷づくりの開催

酒匂川に飛来するコアジサシの営巣地になる砂礫地の整備をしました。



写真4 環境保全講演会



写真5 家族で楽しむ写真教室

酒匂川水系保全協議会 創立40周年記念事業の開催 (1) 酒匂川・鮎沢川水系サミット

サミットでは、小田原市をはじめ、流域4市6町（秦野市・南足柄市・御殿場市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・小山町）の首長が21世紀の酒匂川像について討論するとともに、「清流・四万十川に学ぶ」をテーマに建設省四国地方建設局

河川部長の佐藤直良氏、関東学院大教授の宮村忠氏をお迎えして基調講演が開催されました。（出席者180人）

サミットの最後には、酒匂川の自然環境を21世紀の世代に引き継いでいくための5つの約束を共同宣言にしました。

酒匂川・鮎沢川水系サミット宣言

酒匂川・鮎沢川水系サミット宣言

酒匂川・鮎沢川水系は、古くより人々の生活と密着した水脈であり、自然、河川、環境、文化として人々に受け継がれてきました。その歴史の連続は、流域から河川、そして土地へと続きます。酒匂川は、川を流れる水と人々の生活とが密着した「清流」です。

また、酒匂川は、流域の自然環境の優美であり、私たちの生活に身近な水資源でもあります。この酒匂川の恵みによって育まれた文化が、流域に伝わり、継承し、未来の豊かな生活の礎となっています。

また、酒匂川は、流域の自然環境の優美であり、私たちの生活に身近な水資源でもあります。この酒匂川の恵みによって育まれた文化が、流域に伝わり、継承し、未来の豊かな生活の礎となっています。

また、酒匂川は、流域の自然環境の優美であり、私たちの生活に身近な水資源でもあります。この酒匂川の恵みによって育まれた文化が、流域に伝わり、継承し、未来の豊かな生活の礎となっています。

また、酒匂川は、流域の自然環境の優美であり、私たちの生活に身近な水資源でもあります。この酒匂川の恵みによって育まれた文化が、流域に伝わり、継承し、未来の豊かな生活の礎となっています。

平成13年11月10日

小田原市長 小田 昌弘

秦野市長 二宮 浩

南足柄市長 鈴木 邦

御殿場市長 内 海 隆

中井町長 鈴木 昌

大井町長 宮 田 博

松田町長 高 村 孝

山北町長 宮 崎 一雄

開成町長 藤 本 隆

小山町長 井 田

— 酒匂川上流部、中流部、下流部の流域内各々の一層の環境整備、酒匂川の環境保全を推進します。

— 酒匂川流域の環境保全の必要に応じて流域内各々に努めます。

— 酒匂川の自然環境の維持に努めます。

— 酒匂川の豊かな自然環境の保全に努め、21世紀の豊かな生活と自然環境の保全に努めます。

— 酒匂川と人々の生活とが密着した水脈の維持と環境保全に努めます。



写真6 酒匂川・鮎沢川水系サミット

出席者：4市6町の首長（小田原市・秦野市・南足柄市・御殿場市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・小山町）

住民から生まれて40年 酒匂川・鮎沢川水系流域保全活動 - 酒匂川の自然 21世紀へ -
酒匂川水系保全協議会 会長 小澤 良明



写真7 コアジサシのいる風景

川の環境への取り組みを計画的に推進してまいります。

おわりに

酒匂川水系保全協議会は、昭和35年に酒匂川流域の農業・漁業関係者が中心となって酒匂川の水質保全を地域における組織的な取り組みとして行うことを目的として設立されました。

高度成長期のただ中であつたこのような早期に住民を主導として環境保全団体が設立されたことは他に例をみないことであるとともに、現代の環境問題に対し先見の明があつたことは私たちの誇りとするところです。

発足当初、農業・漁業関係者、工場・事業場及び流域市町の39会員でスタートしたこの協議会も、その後、静岡県、神奈川県の入会をはじめとして流域の関係者のご協力をいただき、現在では99会員を数えるまでに発展をしています。

今日、酒匂川の水質が全国的にみても良好な状態を保っておりますことは、皆様方が酒匂川の環境保全を真剣に考え、40年間もの永きに渡り水質調査・生物相調査をはじめとする酒匂川の環境保全活動を続けてこられました証左であります。

酒匂川水系保全協議会創立40周年記念事業「酒匂川・鮎沢川水系サミット」を開催した際に酒匂川の自然環境を21世紀の世代に引き継いでいくための5つの約束を共同宣言にしました。

これからも、この共同宣言を基礎として流域が一体となり、会員、流域住民の皆様と協力して酒匂